

# NATURAL VOICE

エール学園支部

みんなが主人公

2007年の冒頭にあたって

講師、職員のみなさん、新年を迎え、新たな抱負を胸にされていることと存じます。日本語教育の進展とエール学園の教育内容の充実をめざして、みなさんと今日、明日、あさって…と、すこしずつ未来を拓く気持ちでひとつひとつの問題を話し合い、考えを深め、進んでいきたいと思えます。今年もどうぞ よろしくお願ひいたします。

## 新しい文化の創造を担うために…

地球のある地点での出来事が、瞬時に裏側の物事にも影響を与えるグローバル化。ヒト・モノ・カネ・サービスが容易に国境を越えて行き来します。日本語学校にやってくる生徒たちの動機は様々ですが、彼らが自分の文化を持ってやってくることは間違いありません。そして、日本や大阪の文化と衝突したり、融合したりして、また新しい文化を創っていくことでしょう。このエキサイティングな場面に遭遇できるのは、日本語学校講師たちの特典かも知れません。

とはいえ、この作業を継続してやっていくためには、それにふさわしい環境が必要です。経営者たちは、ビジネスと環境整備の二兎を追うのは苦手です。かといって、講師たちの自己犠牲精神だけに頼っているのは、新しい文化は輝きを失うことになりかねません。そこで労働組合の登場が求められます。労働組合がもたらす緊張と調和は、職場を活気づけます。エール学園支部の誕生は、日本語学校講師たちに注目されています。

2007年のこれからの活動は、内外の日本語講師に希望を与えることでしょう。期待しています。

**大阪教育合同労組 執行委員長 山下恒生**

大阪教育合同労組(EWA)

本部事務所連絡先 06・4793・0633 Fax 06・4793・0644

住所 大阪府中央区北浜東1-17 日本ワードデータビル8F

<http://www.ewaosaka.org>

E-mail: [info@ewaosaka.org](mailto:info@ewaosaka.org)

年末年始の冬休みを経て、再び、授業が始まりました。これからまだ大学受験を控える学生もおり卒業までの総仕上げに気の抜けない日々となります。それぞれに多忙ではありますが、学生・教職員ともにみんなが満足できる成果を得られるよう力を尽くしたいものです。くれぐれも健康に気をつけてまいりましょう。

**講師アンケート**                      第 1 次回収・集計                      結果を次号にて公表する予定です。

講師のみなさま、多数のご回答をいただきました。ご協力、誠にありがとうございました。昨年 12 月 20 日締め切りで回収したアンケート分の集計を終えました。これから結果を検討、分析いたします。なお、まだ未提出の方は、1月26日(金)まで受け付けますのでよろしくお願いいたします。

**支部会ご案内**                      今年最初の支部会を下記の通り持ちます。 **非組合員の参加歓迎**  
ご相談、関心をお持ちの方は、組合員に気軽にお声をかけてください。

日時    2007 年 1 月 19 日(金) 午後 5 時より 6 時

- 議題**
- 1 アンケート集計結果について検討
  - 2 学園との交渉について      今期の交渉見直しと次期契約交渉
  - 3 非常勤講師の労働条件      事例報告・今度の活動方針
  - 4 その他

### 学校・教育はみんなが主人公・・・どこを変えるべきなのか？ **教育基本法**

昨年末は与党提出の教育基本法改正案をめぐり、野党、教育現場の関係者はもちろん、社会各層から異論を唱える声があがりましたが、政府側の十分な説明も徹底した討論もないまま、形だけの公聴会でとりつくろい、多数派に力を頼んで、強行採決で法案を可決させました。

このおとなたちの有様を、当の教育主体である子供たちはどう見ていたのでしょうか。自分たちのために真剣に働いていると尊敬と信頼のまなざしが注がれたのでしょうか。

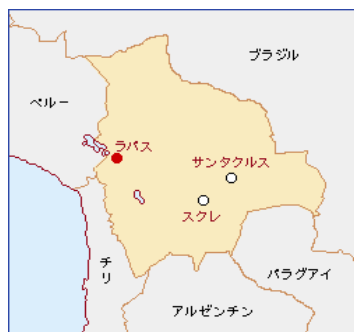
この教育基本法の最初の草案は、当初、その対象を「国民」のみならず、あらゆる人が対象だったといえます。しかし、今回の改正では国籍・民族・宗教・血統により、対象者を峻別するような「愛国心」の尊重が謳われました。60 数年前の未来社会の希望と理想は平和と民主主義でした。もし、今回、改めるところがあるならば、60 年後の未来社会を「開かれた日本社会」として構想するべきではなかったでしょうか。人と人がどう結び合い、学び合うかを身につける場である学校＝教育の理念とは、下記のような情熱をもって語られるとき、ひとびとの思いと意欲を未来に向かわせるのではないのでしょうか。(ひよこまめ)

新しく定められた教育理念に、いささかの誤りもない。

今後、いかなる反動の嵐の時代が訪れようとも、何人も教育基本法を精神的に書き換えることはできないであろう。なぜならば、それは真理であり、これを否定するのは歴史の流れをせき止めようとするに等しい。ことに教育者は、われわれの教育理念や主張について、もっと信頼と自信をもっていい。そして、それを守るためにこそ、われわれの団結があるのではなかったか。事はひとり教育者のみの問題ではない。学徒、父兄、ひろく国民大衆をふくめて、民族の興亡にかかわると同時に、世界人類の現下の運命につながる問題である。

南原繁

( 元東京大学総長      教育基本法起草に関わった一人 )



泣く、騒ぐ、右ではお絵かきに夢中、左でけんかが始まり、それを止めに入ろうとする足にへばりついてくる子。そうこうしてるうちに別の子たちが教室の中を追いかけっこ…これが、私がボリビアで、初めて担当したクラスでした。

南米には、ブラジルやペルーなど、その昔、日本人が移住した国がいくつもあります。ボリビアもそのうちのひとつ。定住の形は、国やその地域によって様々ですが、日本人村を形成しているところとして、私が1998年から2年間過ごした、サンファン移住地があります。当時の村内人口は日系人が400人弱、ボリビア人世帯を含めると800人程度だったでしょうか。かつて海を渡った一世は九州出身者が多く、今は一線を退いて、村の運営は主に二世に任されていました。地理的にも市内から離れており、ある種独特な、現在の日本以上に日本臭さ(?)を残した村でした。

私の給料は月360ドル。村役場から支給されていました。贅沢しなければ、貯金はできないまでも、足は出ない程度でしたし、2年間勤め上げれば、帰りのチケット代は出してくれるとのことだったので、まあいいかな、という感じでした。

\*

\*

\*

\*

私の勤める学校は、村内の小中学校。8学年8クラスで生徒数は140人ほど。日本語の授業は国語(スペイン語)や数学と同じく、科目のひとつとして設定されていました。授業は小学部、中学部ともに、一日ひとコマ90分ずつ毎日。日本語で育ってきた日系人の子供たちのクラスもありましたが、私が担当していたのは、日本語を母語としない日系の子供と、非日系の子供たちのクラスでした。つまりは、日本語学習のニーズがそれほど高いクラスではなかったわけで、それだけでなく集中力の持続しない小学部の子供たちのクラスが、冒頭のようなおもちゃ箱になるのも不思議ではありません。

赴任前に立てていたコースデザインは初日に棄てました。翌日から、小学部では毎日教室にキーボードを持ち込み、色、位置、体の部位などを覚える日本の歌を皆で熱唱。中学部でも、図書室に行って本を広げたり、外に出てゲームしたり、体動かしたり…同じことを、手を変え品を変えやっていたように思います。

それでも暴れる、泣く、けんかするは日常茶飯事。子供に振り回される毎日でしたが、とにかく彼らはかわいかった。皆、明るくて、人懐っこくて、そして、たくましくて。あの村の中で、私が2年間頑張れたのは、彼らのおかげだったと思っています。

いろんな子がいました。村内を無免許バイクで走り回る子、パンを売る家業を手伝うことを条件に学校に入れてもらった子、勉強は全くダメだけど、友達や弟妹には優しくかった子、手先が器用な芸術家肌の子、両親が日本へ出稼ぎに行き寂しいんだと語っていた子…楽しかったことも大変だったことも、子供たちのことを書き始めるときがありません。

彼らと過ごした2年間、日本語教師の技術面というよりは、そのもっと奥の基本的なこと、つまり、気持ちのいい人間関係を創っていくことの大切さを学んだ時間でした。

今は素敵なセニョール、セニョリータになっているであろう、彼らの幸せを願いながら